

【各学部の事例】

高等部



Ⅰ 授業実践の事例①

(1) 授業実践で取り扱った国語科・学習指導要領の内容と年度初めの評価

対象生徒・学年	教科・段階	領域	知識及び技能	評価	思考力・判断力・表現力	評価	主体的に学ぶ態度	評価
A (3年)	国語 中2	話す	・考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解している。	■	・見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えようとしている。	○	・経験したことや自分の意見等を順序立てて話す学習に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	◎
B (3年)	国語 中1	話す	・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。	○	・見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えている。	△	・話す内容の大体が伝わるように順序立てて話す学習に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	○
C (1年)			○	△	△			
D (2年)			○	△	△			
E (1年)	国語 小3	話す	・普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うことができる。	○	・自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話している。	△	・相手に応じた受け答えに関する学習に関心を持ち、積極的に取り組もうとしている。	△
E (1年)	国語 小3	話す	・日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知っている。	○	・日常生活で必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選び行動している。	◎	・日常生活で必要な語句や文、看板などに関心を持ち、積極的に学習に取り組もうとしている。	△

※評価欄は令和7年5月の評価を示し、評価の指標は次の通りである。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
 △：一部達成している。まだ支援を要する。■：実態が分からない。

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名 (指導内容) ★アルファベットは児童生徒名を示す。
国語	「インタビューしよう」(相手の話に関連する質問を付け加えたり、分からないことを聞き返したりしながらインタビューする) …A、C 「相手に伝えるために①」(整理した情報を順序立てて構成し、文章で表す) …B、D、E
生活単元学習	「修学旅行に向けて」(「おおまかの文」「くわしくの文」「まとめ」の項目に沿って修学旅行の作文を書く) …B、A 「卒業記念誌をつくろう」(3年間でがんばったこと、楽しかったことなどの思い出を1つ選び、内容の大体が伝わるように順序を考えて書く。) …B、A
作業学習	「販売会に向けて～市立角館総合病院での販売⑤～」(販売会に向けて、活動内容を計画し、畑の整備、野菜の収穫、作業学習製品の説明や販売グッズを準備する) …A、B、D、C、E
日常生活の指導	「学級の思い出リレー」(日直を担当した生徒がその日の出来事について「おおまかな文」「くわしい文」「次回に向けて」の項目に沿って書く) …B、A

(3) 国語科の対象単元の実践事例

① 単元名「相手に伝えるために①」(計8時間) ★令和7年8、9、10月実施

② 単元目標

ア 順序を表す言葉の意味や使い方を知る。(知・技)

イ 見聞きしたことや経験したことについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考

え、文章で表現する。(思判表)

ウ 作成した文章を友達に伝える学習に積極的に取り組み、自分の経験や気持ちを相手に伝えることの大切さや楽しさを感じたりする。(学・人)

③ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思判表	学・人	評価につながる具体的な様子
B(3年)	国語 中1	◎	◎	○	・自分で体験したトラクターの洗浄方法や野菜の育成過程をテーマに、「最初」「次に」など順序を表す言葉を適切に使用し、100字程度の文章を作成して発表した。
D(2年)		◎	○	○	・作業学習販売会をテーマに80字程度の文章を作成し、発表した。拗音や促音の使い方について課題があったが、「最初」「次に」など順序を表す言葉を適切に使用して文章を作成した。
E(1年)	国語 小3	○	○	○	・提示された順序を表す言葉に合わせ、オムレツの調理方法について箇条書きで文章表現した。授業での課題が分かると、進んで文章の作成や発表に積極的に取り組み、友達からの評価を聞き、喜ぶ表情が見られた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一である。

(4) 作業学習の対象単元の実践事例

① 単元名「販売会に向けて～市立角館総合病院での販売⑤～」(計18時間)★令和7年9月実施

② 単元目標

ア のぼり、テーブルなどの販売活動に必要な用具及びねぎ、漬け物などの農作物や加工品の特徴を知る。(知・技)

イ 状況に応じた言葉でお客様を誘導したり、作成した原稿を基に農作物や加工品を紹介したりするなど、自分の役割を果たす。(思判表)

ウ 自分たちが作った農産物や加工品の販売活動に積極的に取り組み、地域の方々とやりとりしながら感謝される喜びを味わったり、品物が売れる達成感を感じたりする。(学・人)

③ 単元の概要

本単元は、計5回行う市立角館総合病院での販売会の5回目の販売に向けた学習活動である。販売活動では、繰り返し行う体験的な活動を通して実感した課題を次の販売会に向けて解決していく経験を積み重ねることができる。また、自分たちが栽培した農作物や加工品などを地域の方々に直接販売して喜んでもらう経験から、地域貢献への意識や日々の作業学習への意欲が高まると考える。さらに、自分たちが栽培している農作物の生育経過や加工品の製造過程を地域の方々に伝える学習を通し、経験



写真1：作業学習製品の説明の様子

した内容の大体を順序立てて伝える力を高めたり、販売時におけるお客様への誘導といった接客の技術及び相手に合わせて対応する力を伸ばしたりすることができる(写真1)。そして、販売活動全体を通して生徒一人一人の実態に応じて様々な準備物に触れ、その名称を覚える機会を設定することで、日常生活に必要な語句が増え、普段の学校生活での指示理解が高まると考え、本単元を設定した。

④ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び生徒の変容

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 生徒同士で話しやすい環境づくり

生徒が考えた課題と教師のねらいに応じて学習グループを構成したことで、生徒同士で必要な情報や準備物を確認するなど、関わり合っって課題解決する姿が増えた。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 内容の大体や順序立てて伝えるための手立ての工夫

販売活動での説明に必要な作業工程や作業学習製品の製作に関わる協力者が分かるように、個別の課題に応じて、作業日誌に野菜の状態や作業内容、扱った用具の特徴を記録できるようにした。また、説明内容を考える学習場面では、工程の順番を示した写真を提示したことで、それらのヒントを手掛かりに説明文を完成することができた（写真2）。また、販売活動に必要な用具を準備する場面では、教師と一緒に組み立てるなど、実際に操作する場面を設けたことで、操作の際の具体的な注意点について理解が深まった（写真3）。



写真2：作業工程を示した写真（菊芋の間引き）



写真3：折り畳みテーブルを組み立てている様子

⑤ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
A（3年）	国語 中2	○	○	◎	・会計の仕事が空くと、自分からお客様に近付き、「ご試食どうぞ」などと声を掛けて会話のきっかけをつくり、漬け物やピクルスの商品説明をすることができた。また、自分で出来たことをその日の日誌で振り返り、成果を感じていた。
B（3年）	国語 中1	◎	◎	○	・お客様からの質問を理解し、漬け物やピクルスを製作する工程や協力していただいている地域の方などの説明を的確に行っていた。
C（1年）		○	○	○	・お客様に収穫時期や値段を伝えながら、収穫した野菜を勧めることができていた。また、一緒のグループで上級生が学習した内容を思い出し、漬け物の説明も行うことができた。
D（2年）		○	○	○	・個別の目標を意識し、お客様に「お待たせしました」「会計はこちらです」とタイミングよく伝えることができていた。
E（1年）	国語 小3	○	○	○	・販売で準備する物が分かり、自ら進んで活動する様子が増え、教師の手立ても減った。また、準備する際の注意点を上級生に伝えながら活動する様子も見られた。

※単元終了後の評価規準は（1）に示したものと同一とする。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 作業内容や工程の意図についての確認の積み重ね

生徒によっては、野菜の育成方法について、「土寄せ」など作業名と具体的な動きのマッチングが難しく、説明文を作成することに戸惑う生徒が見られた。お客様に商品説明する際は、作業内容や工程が深く関わってくるため、年度当初から、作業前や作業時に確認する機会を設け、日誌等に記録して積み重ねる工夫が必要であった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 生徒同士での評価場面の設定

授業で評価する際は、自己評価や教師からの評価だけでなく、友達同士で評価をし合い、他者の意見を聞く機会を設ける場面が必要であった。そのような経験から、生徒は自分の考えを広げ、課題に対してより具体的に考えて活動に取り組む姿を引き出すことができるようになる。

2 授業実践の事例②

(1) 授業実践で取り扱った国語科・学習指導要領の内容と年度初めの評価

対象生徒・学年	教科・段階	領域	知識及び技能	評価	思考力・判断力・表現力	評価	主体的に学ぶ態度	評価
F (3年)	国語 中2	聞く	・考えとそれを支える理由など、情報と情報との関係について理解している。	△	・身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えている。	○	・話を聞きながら、聞いたことを書き留めたり、分からないことを聞き返したりして内容の大体を捉える学習に積極的に取り組もうとしている。	○
G (2年) H (1年)	国語 中1	聞く	・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。	○ ◎	・身近な人の話や簡単な放送などを聞き、話の大体を捉えるために、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりしている。	○ ○	・身近な人や簡単な放送などに関心をもって聞き、積極的に話の大体を捉えようとしている。	○ △
I (3年)	国語 小3	聞く	・物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解している。	◎	・絵本の読み聞かせなどを通して、出来事などの話の大体を聞き取っている。	○	・絵本などの読み聞かせを通して出来事の大体を聞き取ることに関心をもち、積極的に学習に取り組もうとしている。	△

※評価欄は令和7年5月の評価を示し、評価の指標は次の通りである。

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。
○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。
△：一部達成している。まだ支援を要する。

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名 (指導内容) ★アルファベットは生徒名を示す。
国語	「聞き取って答えよう」(順序を表す言葉を含んだ文章を聞き取り、質問に答える) …I、H 「相手に伝えるために」(整理した情報を順序立てて構成し、文章で表す) …F、G
職業	「実習事前・事後学習」(職場の方に質問して働く上で必要な力について質問す

	る) …F、I、G、H 「様々な仕事（卒業生）」（職場見学し、卒業生や職員の方にインタビューする） …H
作業学習	「働く力を学んで伝えよう①」（樺細工職人へ働く力について質問したり、聞き取ったことをメモしたりする。）…F、I、G、H 「せんぼく校祭で販売しよう」（販売の仕方についてアンテナショップの方に質問したり、聞き取ったことをメモしたりする。）…F、I、G、H

(3) 国語科の対象単元の実践事例

① 単元名「聞き取って答えよう」（計4時間）★令和7年10月実施

② 単元目標

ア 順序を表す言葉を理解する。（知・技）

イ 順序を表す言葉を正しく使って文を考えたり、内容を正しく聞き取ったりする。（思判表）

ウ 相手の話を最後まで集中して聞き、分からないことがあれば質問したり、復唱したりして正しく理解しようとしている。（学・人）

③ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
H(1年)	国語 中1	◎	○	◎	・「最初に」「次に」「最後に」などの順序を表す言葉を正しく使って、文を考えることができたり、友達の考えた文を聞いて、「始めにすることは何ですか。」などの問いに正しく答えたりすることができた。
I(3年)	国語 小3	○	○	○	・「最初に」など順序を表す言葉の種類を理解した。 ・順序を表す言葉に注意して文章を聞き取り、「最初にすることは何ですか。」などの問いに正しく答えることができた。 ・順序を表す言葉を使って文章を書く学習では、「最初に～をします。二つ目に～をします。後半で～をします。」など、順序を表す言葉の組み合わせが不十分であった。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一である。

(4) 作業学習の対象単元の実践事例

① 単元名「働く力を学んで伝えよう②」（計29時間）★令和7年11月実施

② 単元目標

ア 整形や塗り作業等の各工程のポイントを知り、必要な作業スキルを身に付ける。（知・技）

イ 聞き取ったことを相手に確認しながら、ポイントを正しく理解し、そのポイントを意識して作業に取り組む。（思・判・表）

ウ 製品作りや聞き取りなどの学習に積極的に取り組んだり、働く力に関する自分の目標を達成しようとしたりする。（学・人）

③ 単元の概要

本単元は、実習Ⅱ期の前後に行った単元である。実習に向けて、また実習での経験を振り返り、働くために必要な力を生徒の実態から「コミュニケーション（特に聞く力）」と「作業スキル」に絞り、学んだことを自分の言葉で他者に伝えることを目的としている。

「働く力を身に付けよう①」では、樺細工職人から技術指導を受けたり、働く上で大切なことについて質問をしたりして、聞き取ったことをまとめ、樺細工職人へビデオメッセージを通して伝えた。しかし、話の聞き取りに不十分さがあった。

そこで、本単元では、チェック表を用いて自己評価と、友達や教師など複数人からの他者評価を受けて、自分の働く力について整理し、自己理解する活動を行う。また、それを受け、本グループの多くの生徒が課題としている聞く力を身に付けるために、寸劇を通して、聞き取る力の重要性や具体的なスキル（内容を聞き取るための質問、復唱）について学ぶ活動を行う。作業では、質問や復唱の時間を設定し、作業工程のポイントを正しく聞き取り、作業に生かすようにする。単元の後半では、樺細工工場を見学し、質問し、働く上で大切なことを聞き取る場面を設定する。樺細工工場の方へのメッセージを送る学習を通して、工場見学で学んだことや今後に生かしたいことを自分の言葉でまとめたり、伝えたりする力を高めたいと考え、本単元を設定した。

④ 授業づくりの重点事項に関わる手立て及び生徒の変容

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 質問と復唱のルール化

樺木工班の作業製品は箸、箸置き、コースターなどがあり、工程はそれぞれ、25～30程あり、生徒が担当する作業工程は、日によって異なる。その日に担当する作業のポイントを教師から聞き取り、質問を必要に応じて

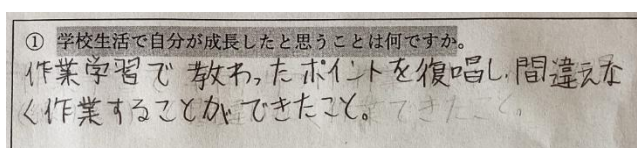


写真4 単元終了後に進路指導部報に記載された生徒の文章

行い、聞き取ったことを復唱することをルール化した。以前は指示を聞いたときに返事をしていても、指示の内容を理解していない生徒がいたが、質問や復唱をルール化し、繰り返し取り組んだことで、やすりがけをする場所や力加減、バフがけにかかる時間など、ポイントの理解につながり、作業学習での自己の成長を感じることができた（写真4）。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 聞く力の課題の把握

単元の初めに、働く力についてのチェック表（写真5）を活用して、自己評価と、同じ作業班の友達や教師による複数人からの他者評価を行った。それらと比較することで、課題を意識することができた。どの生徒も聞く力について課題を抱えていることを、自分で認識することができた。

1 作業学習で必要となる力をチェックしましょう。次の基準にしたがって、番号をつけましょう。また、先生にチェックしてもらいましょう。

4：よくできる 3：だいたいできている 2：もう少し 1：難しい

① コミュニケーション

	コミュニケーション・チェック項目	自分	友達		先生	
			みず	みず	みず	みず
1 基本的な態度	① 話を聞くととき、相手を見たり、良い姿勢を保ったりして最後まで聞く。	3	2.5	2	2	
	② 相手の話を聞く場面で返事をしたり反応したりする。	2	2	2	2	
	③ 決められた場面で挨拶ができる。	3	2.5	3	3	
	④ ③以外の場面で挨拶（日常の挨拶）が自分からできる。	2	2	3	2	
2 話し方	① 相手を見て話す。	3	2.5	3	3	
	② 適切な声の大きさと、はきはきと発表したり話したりする。	2	2	2	2	
	③ 適切な言葉づかいで話す。	2	3	2	3	
3 報告	① 報告の内容が分かり、伝える。	3	3	3	3	
	② 作業終了後にオグリ報告する	?	?	?	?	

写真5 働く力についてのチェック表（一部）

(イ) 聞く力の重要性やスキルの理解

単元の初めに、寸劇を実施したことで、話の内容を聞き取るために、分からないことを質問することや復唱して確認することが大切であることを理解できた（表1）。

表1 寸劇の台本（復唱の重要性の理解）

悪い例		よい例	
剛田工場長	のびくん、今日の仕事を伝えます。	剛田工場長	のびくん、今日の仕事を伝えます。
のびくん	はい。	のびくん	はい。
剛田工場長	あんドーナツとソーセイジパンは違うトレイに並べてください。砂糖がつかないようにした	剛田工場長	あんドーナツとソーセイジパンは違うトレイに並べて下さい。砂糖がつかないようにしたいから

	いからです。		です。
のびくん	はい、分かりました。	のびくん	あんドーナツとソーセージパンは違うトレイに並べるのですね。
		剛田工場長	そうだよ、のびくん。
剛田工場長	あれ、のびくん。あんドーナツとソーセージパンが同じトレイに並んでるじゃない。違うトレイに、と言ったのに。	のびくん	あんドーナツの砂糖がソーセージパンにつかないようにですよ。
のびくん	申し訳ありません。	剛田工場長	完璧だよ、のびくん。
剛田工場長	もうのびくん、ちゃんと話を聞きなさい。		
のびくん	ごめんなさい。助けて、ドラえもん。	剛田工場長	さすが、のびくん。完璧に仕事をこなしてくれているね。復唱して確認してくれているのがよかったね。
		のびくん	はい。復唱すると、覚えやすいです。
		剛田工場長	のびくん、今日の仕事を伝えます。
		のびくん	はい。

⑤ 個別の達成状況

対象生徒・学年	教科・段階	知・技	思・判・表	学・人	評価につながる具体的な様子
F (3年)	国語 中2	○	○	◎	・質問と復唱の機会を設定したことで、作業の目的やポイントを正しく理解し、ペアで友達と確認し合う際に、ポイントに気を付けて作業できているか確認することができた。
G (2年)	国語 中1	◎	◎	◎	・質問と復唱の機会を設定したことで、作業の目的やポイントを理解して作業に取り組むことができた。ポイントをいつもしっかり守って作業に取り組むことができた。
H (1年)		◎	○	◎	・以前は、働く力についての自分の課題に気付くことが難しかったが、単元の初めに複数人の他者評価を得ることで、自分の課題を理解した。相手の顔を見て話を聞くことを自分の目標として設定し、毎回作業に取り組んだ。
I (3年)	国語 小3	○	○	○	・質問と復唱の機会を設定したことで、作業のポイントを覚え、作業のポイントについて質問すると、正しく答えることができた。

※単元終了後の評価規準は(1)に示したものと同一とする。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 適切な言語環境の設定

(ア) 国語科の包括的な学習内容の設定

本単元では話の大事なところを聞き取ることに焦点を当てたため、読んだり書いたりする活動は、日誌の記入のみにとどまった。読んだり書いたりする活動は系統的な繰り返しの指導が必要であるため、「説明や指示書を読んで作業する」、「聞き取ったことをメモする」などの指導場面の設定も必要であった。

(イ) 提示する視覚的な情報の精選

本単元の授業では、ホワイトボードに工程表や、その日の生徒の個人目標、作業をする上で注意するポイントなど、様々な物を掲示していた。生徒がどの部分に注目して学習を行っているのか分かりやすいように、必要な情報に注目を促したり、視覚的な情報を精選したりするなどの工夫が必要であった。

イ 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 国語科と合わせた指導を関連付けた年間指導計画や単元計画の作成

作業学習と国語科で学習グループが異なっていたため、「聞く力」について教員間で共通理解し、段階的かつ計画的な指導を行うことが難しかった。年度当初に国語科と作業学習等の担当者間で年間指導計画や単元計画を検討する機会を設定し、両者を関連付けながら「聞く力」を育成する重要性を実感した。

3 まとめ

(1) 成果

① 作業学習における国語科のねらいの明確化と資質・能力の向上

国語科と作業学習を関連付けた指導を進め、国語科において育成したい資質・能力を意識した授業づくりを行うことができた。例えば、作業学習において販売会でのお客様への説明文を考える学習や、作業のポイントを復唱したり質問したりする必要性に気付く学習を設定した。このように、作業学習の中で国語科の目標が達成されるよう、意図的に単元計画を設定した。

ねらいを明確にして国語科や作業学習で繰り返し学習したことで、作業学習製品を説明したり、言葉の意味やポイントを自分の言葉で話したりするなど、生徒が相手意識を高め、適切な言葉を使って主体的に説明を行う姿が見られるようになった。また、生徒自身の経験や実態に応じた表現が増え、国語科で学習した内容を作業学習等の他の学習場面に生かそうとする様子が見られた。

(2) 課題・改善案

① 各教科等を合わせた指導の単元化

各教科等を合わせた指導において「説明する力」「自分の考えを伝える力」、「文章を読み書きする力」など国語科に関わる資質・能力を、どの単元で、どの場面で、どの程度取り入れるか十分に整理しきれていない部分が見られた。改善案として次のような「単元化」した指導計画を立てる必要がある。

ア 生徒一人一人の学習状況に応じた到達目標や手立てを具体化する。

イ 各単元で育成する国語科の力を明確にし、どの場面で扱うか具体化する。

ウ 各教科等を合わせた指導に学習指導要領の国語科の「内容」を組み込み、単元目標を設定する。(国語科の「内容」が必要とされる単元のゴールを設定する。)

② 国語科と各教科等を合わせた指導の関連付け

国語科の時間で十分に取扱いえない内容が生じたり、国語科と各教科等を合わせた指導との関連付けが不十分であったりする課題が見られた。改善案として次の事項を挙げる。

ア 生徒の実態に応じて国語科では文章の読み書きなど系統的な指導が必要な内容を取り扱う。

イ 各教科等を合わせた指導では、本研究で取り扱った「聞く・話す」活動だけでなく、「読む・書く」も含めて、国語科での学習内容を実際の活動場面で活用する指導内容を設定する。

ウ 国語科の単元設定の際には、各教科等を合わせた指導における個々の生徒の実態を考慮したり、各教科等を合わせた指導の学習内容を活用したりする。

これにより、国語科と各教科等を合わせた指導が相互に学習内容を生かし合う指導の充実につながると考える。

